

第1学年 国語科学習指導案

日 時 7月11日(土) 1校時
対 象 1年1組 28名
授業者 鹿内 夏希

1 単元名 挿絵をよく見て考えよう 「おおきなかぶ」(光村図書)

2 校内研究との関わり

児童は、これまでに「はなのみち」で登場人物という用語や、物語の内容を知るには文を読んだり挿絵を見て考えたりすることを学習した。本時で扱う「おおきなかぶ」は、「はなのみち」を経て本格的に物語教材に触れる最初の単元である。そこで本時では、児童が挿絵を並べ替える活動を通して、楽しみながら登場人物の出てくる順序や出来事を確認する姿を目指す。その際、並べ替えた根拠を本文から探せるように問い返しをして意識づけていく。挿絵と本文に注目して場面ごとの出来事を理解できる力を育てたい。

本時では、「自律に向かう学び」のうち、以下の段階を位置付ける。

- ㊦ 子どもが選択する場面が生まれる。
- ㊧ 児童と教師が学びの進め方を調整する。

さらに、自分でやり方を選択したり一緒にやる人を誘ったりと他者と関わる活動の中で、

- ⑤ 情緒・社会性に関する多様性
- を生かした学びにつなげたい。

3 本時の授業

(1) 目標

挿絵を並び替える活動を通して、場面ごとの登場人物や出来事、増えていく順序について確かめ、出来事の数と登場人物を出てきた順番に書くことができる。

(2) 展開 2/6

学習活動	・教師の働きかけ ㊦評価 ☆支援 □校内研究との関わり
1 前時を振り返る。	・「物語文」であることを確認する。
2 音読をする。	・挿絵のない教材文を用意する。
3 めあてを確認する。 ㊦ どうしようじんぶつは、どんなじゅんばんで、でてくるのかな。	・学習用語「登場人物」の言葉を確認する。
4 挿絵を並び替える。 ・最初におじいさんが出てきて、次はおばあさんだったから…。 ・犬→猫→ねずみの順番で出てきたから…。 ・まごは、いつだったかな。	・挿絵の順番を変えて掲示し、順番がおかしいことを児童に気付かせ、並び替える必要性をもたせる。 ☆絵本を準備しておき、出てきた順番を確かめられるようにしておく。 □黒板に掲示されている挿絵、机上でできる小さな挿絵など、児童が自分で選択できるようにする。 [自律㊦] □選択時に一人でも複数人でも、相談しながら取り組んでよいことを知らせる。[多様性⑤]

5 並び替えた理由を発表する。

- ・教科書に、「かぶをおじいさんがひっぱって、おじいさんをおばあさんがひっぱって」と書いてあるから。
- ・「おばあさんは、まごをよんできました。」と文に書いてあるから、おじいさん、おばあさん、まごの順番で並んでいる絵がここだと思った。

6 まとめをする。

- ・出来事の数と登場人物を出てきた順番にワークシートに記入する。

- ・「おおきなかぶ」は、9つのできごとがある。
 - ・でてきたじゅんばんんは、おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、ねずみのじゅんばん。

7 振り返りをし、次時の予告をする。

- ・登場人物の出てくる順番がわかった。
- ・絵や文を見るとわかることがあると気付いた。
- ・もっと物語の中身を知りたい。

- ・誰が誰を呼んできたかを確認する。

□挿絵、本文を根拠に話すことができるように、「どうしてそう思ったのか教えてくれる？」と声をかける。〔自律⑤〕

□ワークシートも選択できるように複数の種類を用意する。〔自律⑥〕

◎出来事の数と登場人物を出てきた順番に書いている。

【思考・判断・表現】ワークシート

- ・わかったことやもっと考えたいこと、感想などを聞く。
- ・次時は、おじいさんの願いや行動について学習していくことを知らせる。